

抄 録

結核専門雜誌

The American Review of Tuberculosis Vol. XXXII. No. 4 (1936)

家兎ニ於ケル實驗的肺結核ノX線の及ビ病理的所見ノ比較

Hugh E. Burke: A Comparison of the röntgenological and pathological Findings in experimental pulmonary Tuberculosis in Rabbits

肺結核ノ病理ニ大キナ影響ヲ及ボスモノハ感染ノ期間ト細菌數トデアアル。此點ヲ詳細ニ究明スル目的ノ下ニ家兎ニ就テ氣管内ニ強毒ノ人型結核菌1mgヲ浮游液トシテ注射シ、連續的ニX線寫眞ヲ撮リ、且剖檢ニ際シテハ常ニ肺臟ヲ膨脹センメテ、臟器ノミノX線寫眞ヲ撮ツテ對照シタ。

先ヅ初感染結核ニ就テノ成績ヲ述ベテ居ル。實驗ハ67頭ヲ用ヒ、其内14頭ニ於テハ右側ヲ下ニシテ其側ニ病竈ヲ形成センメント試ミタガ、大等ノ $\frac{1}{3}$ ニ於テノミ右側ニ局限センメ得タニ過ギナカツタ。之ニ反シテ左側ヲ下ニシテ其側ニ病竈ヲ形成センメル事ハ每常成功シタ。

特異ナ點ハ何レモ一般狀態ガ正常家兎ト異ラズ、發熱モ無カツタ事デアアル。

胸部X線寫眞テ異常陰影ガ初メテ顯レルノハ概ネ第10日ト第17日ノ間デアアルガ、若シ肺臟ヲ剔出シテX線寫眞トスレバモット早く陰影ヲ發見スル事が可能テ、大抵第6日カラ第8日目ニハ之ヲ認メル事が出來ル。時ニハ早くモ第2日ニ既ニ陰影ヲ證明シタモノモアルガ、之ハ非特異性ノ肺炎ト大キナ氣管側淋巴腺トニヨルモノデアツタ。非特異性肺炎ニ於テハ通常小數ノ氣管枝肺胞ガ侵サレ、2—3日ノ内ニ消失シ始メル。第8日ノモノテハ胸部X線像テ變化ヲ認メ得ズ剔出肺臟X線像テハ肺炎ノ中心ト數個ノ大キナ氣管側淋巴腺腫トヲ見ル。最初ニ胸部X線像テ異常陰影ガ現レルノハ第10日カラ第17日ノ間デアアルガ、陰影ハ濃度均等ニシテ形ハ不整デアアル。此時剔出肺臟テ

ハ陰影ノ位置竝ニ形ガ一層明ニ見エ、剖檢ニヨルト肺臟内ニハ孤立性竝ビニ集合性ノ結節ガ認メラレル。

第12日ノ或ル者ニ始メテ淋巴腺内ノ壞疽ヲ認メ、肺臟内テハ之ヲ第17日ノモノニ始メテ發見シタ。

胸部X線像ニ於ケル陰影ハ漸次其大サヲ増シ1ヶ月ノ終ニハ最大トナル。第3—7週ノ胸部X線像ハ殆ド等シク、乾酪化セル焦點ニヨツテ斑點狀ニナツテ居ル剔出肺臟X線像テハ一層明ニ認メラレル。剖檢亦之ヲ裏書スル。

第1月ノ終カラ第3月ニカケテ胸部X線像、剔出肺臟X線像共ニ何レモ病變ガ退行シ始メル。但X線像ノミテハ第12日ノモノト必ズシモ明カニ區別シ得ナイ位デアアルガ、顯微鏡的ニハ全ク異ツタ像ヲ呈シテ居ルノデアアル。即第1月ノ終ニ殺シタモノテハ纖維性或ハ纖維性乾酪性結節ヨリ成リ、第12日ニ殺シタモノハ最初ノ未發育ノ結節ガ主ト成ツテ居ル。第3月ニ撮ツタ胸部X線寫眞テハ明ナル病的變化ヲ認メ得ナイ事が屢ニアル。而シ斯カル場合ニモ普通ハ剔出肺臟ノX線寫眞及ビ肉眼的ニハ病竈ノ存在ヲ認メ得ルモノデアアル。

第3月以後ニナルト、胸部X線寫眞テハ大抵病的變化ヲ認メ得ナイ。剔出肺臟X線寫眞テスラ辛ウジテ病的變化ヲ推察スルニ止ル事モアリ、又全ク認メ得ナイ事モアル。シカモ此際肺臟ニハ病竈ハ尙存在シテ居ルノデアアル。

第6月以後ニナルト、剖檢上ニモ病竈ヲ發見シ得ナイモノガ12頭中ニ7頭モアル。但肺臟ニハX線のニ變化無キモ乾酪化セル氣管側淋巴腺、肺臟、脾臟ハ粟粒結核、蟲樣突起ノ結核性變化ヲ認メタモノモアル。

第3年カラ第4年ニ殺シタモノテハ石灰化セル結節纖維性乾酪性病竈、空洞、異常氣管枝及ビ代償性肺氣腫ヲ見ル。

胸部X線寫眞テ空洞ヲ認メタモノハ極少數デアリ、剖檢ニ於テモ亦稀ニシカ發見サレナカツタ。シカモ1ヶ月以内ニハX線のニモ剖檢のニモ全ク空洞ヲ見出シ得ナカツタ。又何レモ氣管側線ハ大キクナリ、或モノハ乾酪性中心ヲ持ツテハ居ルガ、石灰化ハ何レモ認メナカツタ。以上ノ結果ハ全ク小兒結核ニ類似セル經過ヲ示スモノデアル。

第二ノ再感染結核ニ就イテハ成人結核ニ比スベキ再感染ヲ氣管内注射ニヨツテ惹起セシメタモノニ就テ報告シテ居ル。即初感染トシテ無毒結核菌浮游液ヲ鼠蹊部ニ注射シ、3週間ヲ經テ有毒結核菌ヲ氣管内ニ注射シタノデアル。

初感染結核ノ場合ト異ル點ハ第一ニ初ノ1—2週間食思減退、發熱ヲ見ル事デアル。第二ニハ胸部X線寫眞上ニ異常陰影ノ現レル時期ガ遙ニ早イ事デアル。即チ第1日ノ終ニ既ニ均等濃度ノ陰影ヲ見ル。剖檢テハ赤色肝變ノ狀態ニアル結核性肺炎一因ルモノデアル。第2日ニナツテモX線のニハ變リハ無イガ、此際既ニ剖檢テハ灰色肝變狀態ニアル。第4日第8日ノモノモ亦X線のニハ以前同様デアアルガ、既ニ前者ハ中心部ニ貧血性壞疽ヲ惹起シテ居リ、後者ハ肉眼的ニモ見得ル乾酪性中心部ヲ持テル灰色凝結ヲ呈シテ居ル。第2週ニ入ルト一般ニ異常陰影ガ大キサヲ増シテ略々最大ニ達ス。

初感染結核ト異ル第三ノ點ハ空洞形成ガ屢々見ラレル事デアル。即チ第2週以後ニ殺シタ家兎29頭ノ中7頭ニ空洞ヲ發見シタ。滲出性肋膜炎、粟粒性播種、空洞形成ハ何レモ第2週ニ現レル。但空洞形成ハ胸部X線寫眞上ニハ發見サレズニ別出肺臟X線寫眞上ニ初メテ發見サレルモノモアル。

次ニ空洞等ノ合併症ヲ伴ハナカツタモノニ就テ見ルニ第3週ノモノハ胸部X線寫眞上テハ第2週ノモノト餘リ變リハ無イガ、剖檢上既ニ治癒ノ徵ヲ現ス。即チ肺炎ノ乾酪性中心ハ「フィブラステン」及ビ淋巴細胞ニ浸潤サレタ纖維性組織ニヨリテ圍マレテ居ル。即チ組織化ノ徵ヲ示ス。第2月ニ入ルト胸部X線寫眞上ノ陰影ハ其大サヲ減シ始め、剖檢のニモ組織化及ビ消散ニヨル治癒ノ傾向ヲ見ル。

即チ治癒ノ早キモ亦初感染結核ト異ナル點デアル。胸部X線寫眞ヨリハ別出肺臟X線寫眞ノ方ガ病的變化ヲ詳細ニ示ス事、又後者ヲ以テシテモ必ズシモ剖檢上ノ所見ヲ豫知シ得ヌ事等ハ第一次結核ノ場合ト同様

デアル。又進行性病竈ト退行性病竈トガX線のニ等シイ像ヲ呈スル事モ同様デアル。X線的ニ初感染結核ト再感染結核トヲ辨別スル事ハ不可能デアル。

最後ニ上述ノ實驗的再感染結核ト臨牀的ノ成人結核ノ間ニ大ニ類似セルモノ、アル點ヲ指摘シテ居ル。

(宇多野 内藤抄)

不定型の抗酸性微生物

III. 人體ヨリノ色素體性抗酸性菌

Max Pinner: Atypical acid-fast Microorganisms.

III. Chromogenic acid-fast Bazilli from Human Beings.

種々ノ人體材料ヨリ結核菌ヲ分離スベク植エタ培養基中ニ現レル色素體性抗酸菌ハ相當多數ニ見出サレテ居ルガ、著者ハ原材料ヲ異ニスル15菌株ニ就テ細菌學的及ビ病理解剖學的研究ヲ試ミタノデアル。何レモ抗酸性、「グラム」陽性テ自動性無ク孢子形成ヲ見ナイ。鷄卵及ビ馬鈴薯培養基ニ最モ良ク發育スル。「コロニー」ハ半球形表面平滑ニシテ光澤アリ、色ハ黃褐色デアル。

海猿、家兎及ビ鷄ニ於ケル接種實驗テハ一定ノ病竈ヲ作ルガ、良性ニシテ自然治癒ヲ營ミ結核ノ所見トハ明ニ區別サレル。初感染ト再感染トノ剖檢所見ノ差ハ量的デアツテ質的テ無イ。種々ノ菌株ニ感染セル海猿ハ「ツベルクリン」及ビ同族菌株ノ培養濾過液ニ一定ノ反應ヲ呈スル。菌株ニヨリ毒力ニ差ハアルガ、動物通過ニ由ル毒性上昇ハ認メラレズ、腐敗性細菌ト考ヘラレル。但或者ニ動物通過ニ由リ其惹起スル病理組織學的所見ガ人體結核ノ夫ト非常ニヨク似タモノニナル事ヲ認メタガ、此點ニハ未ダ疑問ノ餘地ガアル。

(宇多野 内藤抄)

不定型の抗酸性微生物

IV. 平滑ニ生育スル結核菌

Max Pinner: Atypical acid-fast Microorganisms.

IV. Smooth-Growing Tubercle Bacilli.

此處ニ平滑(Smooth)トハ「コロニー」ノ形態學的ノミノ意味ニ用ヒラレテ居ルノテ、Petroffノ稱ヘタ意味ニ於テハナイ。著者ハ3個ノ人體材料及偶然ノ孵卵器過熱ニ遭遇セル菌株1個ヨリ次ニ述ベル様ナ菌株ヲ得タ。即チ是等ハ抗酸性、「グラム」陽性、自動性無ク、孢子ヲ形成セズ。「コロニー」ハ大ナリ小ナリ半球形、純白或ハ「クリーム」色、全ク平滑ニシテ輝イテ居ル。硬度ハ「クリーム、チーズ」様テ時ニ粘著性ガアル

其病原性ハ前編ノ菌株ニ等シイ。動物通過ニヨリ定型の人型結核菌トナリ得ル。著者ハ是等ヲ人型結核菌ノ變形ト考ヘテ居ル。(宇多野 内藤抄)

結核空洞内ノ孢子形成嫌氣性細菌

Francis C Farago: The Spore-Bearing Anaerobic Bacterial Flora of Tuberculous Cavities.

30人ノ結核患者ノ空洞ヨリ死後2—3時間以内ニ嫌氣性細菌ヲ培養シタ所各種ノ病原性或ハ非病原性嫌氣性細菌ヲ見出シタガ、就中 B. Welchii ハ 100%ニ證明サレタ。カクテ得タ B. Welchii ノ菌株ノ 42%ハ病原性ヲ有シテ居タ。以上ノ結果ハ腸内ニ於ケル成績ニ等シケレドモ、死後2—3時間以内ノ培養テアル事、及び結核患者喀痰中 10%ニ證明シタ事等ヨリ死後ノ夾雜物ニヨルトハ考ヘラレナイト言ツテ居ル。

(宇多野 内藤抄)

「ベリリウム」ノ生物學的作用

Russell N. Loomis and Emil Boger: The Biological

Effects of Beryllium.

多數ノ無機元素ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テノ廣汎ナル研究ノ途中ニ於テ、「ベリリウム」ガ結核ノ發展ヲ促進スル作用ヲ有スル事ヲ見出シタノテアル。海猿ニ於ケル以上ノ作用ハ有毒人型結核菌ノ投與量或ハ投與方法ニ關係セズ、剖檢ノ時期ニモ無關係デアアル。但「ベリリウム」ハ繰返シテ注射セル場合ニノミ上述ノ影響ヲ及ボス。試験管内テハ結核菌ノ發育ニ對シテ何等ノ影響モ無イ。家兎ノ實驗的結核ニ於テハ「ベリリウム」ニ以上ノ作用ハ認めラレナイ。

「ベリリウム」ヲ與ヘラレタ結核海猿ノ皮膚反應ハ其現レル時期ニハ變化ヲ認めナイガ、反應ガ強ク、淋巴腺腫脹モ著シク、體重減少モ甚シイ。鹽基性鹽酸鹽、硝酸鹽、酒石酸鹽及ビ乳酸鹽ハ何レモ同様ノ效果ヲ有ツガ、枸橼酸鹽及ビ非溶解性炭酸鹽浮游液ハ何ノ作用モ無イ。之ハ「イオン」化ノ有、無或ハ程度ニヨルト考ヘラル。(宇多野 内藤抄)

The American Review of Tuberculosis Vol. XXXII No. 5. (1936)

卒業前ノ學生ニ對スル結核ニ就テノ教授

T. A. Miller: The undergraduate Teaching of Tuberculosis.

著者ハ卒業前ノ醫科ノ學生ニトツテ、結核療養所ニ於ケル數週ノ教授ガ甚タ必要デアル事ヲ強調シ、其理由且理想トシテ次ノ諸點ヲ擧ゲテ居ル。

1. 肺結核ハ理學の所見ニ止ラズ、X線寫眞ニ依ツテ初メテ早期診斷ガ可能デアルカラ、學生ハ之ヲ充分會得シナケレバナラナイ。
2. 肺結核ハ千變萬化ノ經過ヲトルモノデアルカラ、連續的X線診斷ニ依テノミ其ノ全貌ヲ學ブ事ガ出事ル。
3. 學生ハ急性疾患ヨリモ寧ロ慢性疾患ニ依テ一層醫者トシテ鍛ヘラレル。
4. 結核ニ精通セル職員ガ必要デアアル。望ムラクハ音ニ結核ニ止ラズ、一般醫學ニモ廣汎ナル基礎的經驗ヲ持テル者ナレバ一層結構デアアル。
5. 胸部慢性疾患例ヘバ肺氣腫、肺硬化症(Pulmonary fibrosis)氣管枝擴張症、肺膿瘍、塵肺、及惡性疾患ノ智識殊ニ結核トノ鑑別診斷ノ熟練ガ必要デアアル。
6. 偶發的一般醫學ノ修得ガ出來ル。
7. 外來患者ニ就テノ教授、結核豫防ニ就テノ教育ガ

出來ル。

8. 醫者ニハ科學的醫學以外ニ一種ノ art ガ必要デアアル。慢性疾患ノ處置ハ此ノ art ノ會得ニ役立つ。殊ニ心理學者ト精神病學者トガ此教育ニ共同ニ携ツテ欲シイモノデアアル。

9. 病理學ノ教授ガ必要デアアル。殊ニ動的ニ結核ノ發展ガ學バレナケレバナラナイ。

10. 小兒結核ノ研究及ビ理解ガ必要ナ事ハ言フ迄モナイ。

11. 最近發達セル外科的療法ノ修得モ大切デアアル。終ニ著者ノ病院(Bellevue Hospital, New York)ニ於ケル學生教育ノ方法ヲ述ベテ居ル。

(宇多野 内藤抄)

心筋ノ結核惹起

H. Horn and O. Saphir: The Involvement of the Myocardium in Tuberculosis.

心筋ノ結核ハ稀ナモノテ、1964年ノ Maurocordat 以來1902年迄ニ 72例シカ無イト Anders ハ言ツテ居ル。

心筋結核ノ病理學的分類トシテ、從來 1) 顆粒性結核、2) 粟粒性結核、3) 瀰漫性浸潤、4) 慢性間質性結核性心筋炎ノ四型ガ擧ゲラレテ居ルガ、著者ノ考テ

ハ第一第二ノ型ハ問題ハ無イガ、第三型ト明言シ得ルハ組織學的變化ガ結核性特徴ヲ具ヘテ居ルカ、結核菌ガ海狸接種、或ハ顯微鏡的検査ニヨリ證明サレタ場合ニ限ラレル。サモナケレバ此型ハ所謂 Specific productive myocarditis (Saltykow, Gierke)ト鑑別シヨウカ無イカラテアル。同様ノ理由カラ結核テ死亡シタ者ノ心臓ニ結締織性心筋損傷ガアツタトテ、結核性ノ原因ニ因ルモノダトハ断定シ難イ。故ニ第四型ノ慢性間質性結核性心筋炎ナル名稱ハ棄テタ方ガヨイト言ツテ居ル。

次ニ著者ハ心筋ノ粟粒結核ノ3例ヲ報告シテ居ル。其ノ中ノ1例ハ聚合結節テアル。是等3例ハ何レモ小兒テアルガ、文獻ノ上テモ亦心筋ノ粟粒結核ノ大部分ガ小兒ニオコル事ガ明ニサレテ居ル。之ハ粟粒結核テ死亡セル若年者ノ心臓ニ粟粒結節ヲ發見サレ易イノハ比較的廣イ部分ガ組織學的ニ検査サレル爲テアル事ヲ物語ルモノテアルト著者ハ考ヘテ居ル。

(宇多野 内藤抄)

大葉性肺炎治療トシテノ人工氣胸

T. Klein and V. L. Tuck: Artificial Pneumothorax in the Treatment of Lobar Pneumonia.

大葉性肺炎ノ治療ニ人工氣胸法ヲ應用シタノハ1921年Friedmanニ始ル。其後數氏ノ追試ガアルガ1934年Lieberman and Leopoldハ實驗的根據ヨリ此方法ノ優秀ナルヲ承認シタ。著者ノ臨牀的實驗例ハ43例ニ及ンテ居ルガ、其結論ハ次ノ様テアル。

- 1) 片側ノ大葉性肺炎ノ人工氣胸療法ハ肋膜痛ヲ除去シ、「チアノーゼ」及血液中毒ヲ輕減スルニ卓效ガアル。
- 2) 全體ノ44.2%ハ分利ノ時期ヲ早メラレタ。
- 3) 他ノ療法ニ依ツテ處置シタ患者群ニ比シテ死亡率ガ低イ(即チ41.5%ニ比シテ25.6%)。

(宇多野 内藤抄)

結核菌血症

H. J. Copper and C. B. Vidal: Tuberculous Bacillaemia.

著者ハ感染動物ニ於ケル結核菌血症ノ意義ヲ決定シ、結核菌ノ特定ノ動物ニ對スル毒性ガ流血中ノ菌ノ耐久力ニ何等カノ役目ヲ演ズルヤ否ヤヲ明ニセントシテ本實驗ヲ企テタノテアル。即毒性ヲ有スル人型牛型及鳥型結核菌ノ浮游液ヲ豚鼠家兎鷄及犬ノ靜脈内ニ注射スルト、0.001或ハ0.000001mgm.ノ菌量テハ

全身ノ進行性結核ヲ惹起スルニ關ラズ、速ニ流血中ヨリ消失スル。又大量(1mg)ヲ注射スレバ動物ガ急速ニ斃死スル迄流血中ニハ殘ルガ、流血中テ増殖スルト考ヘラレル根據ハ少シモ無イ。同シ1mgヲ用ヒテモ發病性無キ菌種對動物ノ場合ハ流血中ニ1週間位ハ存在シ、其ノ後消失スル。

大量注射後流血中、結核菌耐久力ニ關シテ各動物間ニ一定ノ平行關係ヲ認メ得ルモ、靜脈内菌注射ニ對スル各動物ノ感受性ニハ著明ナル差違ヲ認ム。

本實驗及幾多ノ臨牀的觀察ヨリ見レバ、結核ハ必ズシモ菌血症(流血中テ結核菌ガ耐久力ヲ持チ、或ハ増殖スルト言フ意味ニ於ケル菌血症)テハ無イ。結核菌ハ稀ニ末期ノ状態ニ於テ或ハ偶然ノ「エンボリー」ニ於テ流血中ニ發見サレルニ過ギナイ。

(宇多野 内藤抄)

熱竝ニ「フォルマリン」ヲ以テ殺シタ結核菌ヲ以テセル豚鼠ノ免疫

A. Brauch and J. F. Fnders

諸家ノ研究ニ依ツテ、熱竝ニ「フォルマリン」ヲ以テ殺シタ結核菌ノ「ワクチン」ガBCGニ劣ラヌ效力ヲ持ツ事ガ立證サレテ居ルガ、一方Rich and McCordock, Myers and Harrington等ハ結核ノ「アレルギー」ハ結核菌侵入ニ對シ防禦的役目ヲ演ズルモノニ非ズ、反對ニ不利益ヲ要素トナルト考ヘテ居ル。

著者ノ實驗テハ食鹽水1ccニ就テ5mgm.ヲ含ム浮游液ヲ65°Cニ4時間處理セル「ワクチン」及0.25%ノ「フォルマリン」ヲ上述ノ浮游液ニ加ヘテ室溫テ少クトモ1週間放置セシ「ワクチン」ヲ用ヒ、投與ノ方法ハ0.5cc宛3回、熱ニヨル「ワクチン」ハ筋肉内、腹膜腔内、及靜脈内ニ注入シ、「フォルマリン」ニヨル「ワクチン」ハ筋肉内ニ注射シタ。

其結果熱ニヨリ殺サレタ結核菌ハ豚鼠ニ於テ、豫防「ワクチン」トシテ有效テアル事ガ明トナリ、且筋肉内注射ガ最モ能率ガ良イ事モ證明サレタ。「フォルマリン」ニヨル「ワクチン」ハ其ノ效力ガ少シ劣ル様テアル。

尙「ツベルクリン」ノ皮膚反應ニヨツテ検査シタ「アレルギー」ノ程度ト免疫ノ強サトノ間ニハ何等ノ關係ヲモ見出し得ナカツタ。

(宇多野 内藤抄)

The American Review of Tuberculosis Vol. XXXII No. 6. (1935)

小兒ニ於ケル非結核性肺疾患

W. Nissler, J. Sokoloff and L. Cohen: Nontuberculous pulmonary Disease simulating tuberculosis in children.

小兒ニ於ケル潜伏結核或ハ初期結核ノ診斷ハ主トシテX線ト「ツベルクリン」試験トニヨリテナサレテ居ル。Opie, Hethering, Blocklock 及ビ Gohn 其他ニヨレバ「ツベルクリン」反應ノ確實性ハ剖檢ニヨル結核性變化ノ所見ト殆ド同様ナ意義ヲ有スルト言フ。然シ著者ハ此説ニ疑ヲ與ヘ得ル3例ノ結核ニ似テ結核ニ非ザル肺疾患ノ症例ヲ報告シテ居ル。其1例ニ就イテ言ヘバ健康ナリシ少女ガ急ニ肺炎症状ヲ呈シ高熱ヲ發シ濕咳ヲ發シ次イテ乾咳トナリ、右上葉ニ濁音ヲ呈シテ中等大ノ水泡音ヲ有シタリシ者ガ數週間ノ病院生活ノ後ニ結核診療所ニテX線検査ノ後廣汎ナル右上方ノ結核性疾患ト診斷セラレタリ。然レドモ喀痰ノ菌検査ハ陰性デアツタ。其他ノ患者モ似タ症状ヲ有シテ何レモ陽性「ツベルクリン」反應ヲ呈シ、X線所見モ結核ヲ思ハシムル者デアツタ。所ガ是等3名ノ患者ハ其後2年或ハ數年間ニ互リ格別ノ症状ヲ呈シナカツタカラ、上記ノ様ナ初期症状ハ數ヶ月間ニ經過シ終ハル症状ヲ有スル Epituberculosis テナイト考ヘラレル。又初感染ガタトヘ重症デアラウトモイツカハ吸收サレルカ又ハ石灰沈著ヲ來ス状態トモ異ナツテ居ル。又第二期感染ノ病竈ガ擴大シ空洞ヲ作ツテ惡化シ易イ傾向ヲ有スル状態トモ明ラカニ異ツテ居ル。檢痰モ繰返シ行ツタガ結核菌ハ陰性デアツタシ、海猿ニ注射シテモ感染ヲ來タサズ、又培養基上ニモ生ヘナカツタ。著者ハ斯ノ如キ經驗ニ基キ非結核性浸潤ハ上葉テ而カモ單側ニ來得ル者デアリ。「ツベルクリン」反應ガ陽性テX線所見モ結核ヲ思ハシムル者ニ尙結核性ニ非ラザル浸潤ヲ有スル者ガアルカラスノ如キ場合ニハ臨牀上或ハ理學上ノ諸検査ノ外ニ特ニ檢痰ニ注意シ疑ハシキ場合ニハ Bronchos- opie ヲヤリ氣管枝ヲ通シテ分泌物ヲ採取シ検査スル方法ヲ講ズベキデアルト言ツテ居ル。

(宇多野 山内抄)

「グリセリン」ヲ含マザル結核菌培養基

R. R. Henley: A Glycerol-free medium for the

tubercle bacillus.

著者ノ研究室テハ「アミノ」酸及ビ「グリセリン」ヲ包含シナイ次ノ成分ノ様ナ培養基ヲ作ツタ。

- 林檎酸「アンモニウム」 (NH₄)₂ C₄H₄O₆.....12.53gm
- 第二磷酸加里 K₂ H Po₄+3H₂O., C.P.....1.80
- 枸橼酸曹達 Na₃C₆H₅O₇+5½H₂O., C.P.....0.75
- 硫酸「マグネシウム」 MgSo₄+7H₂O, U.S.P.....1.50
- 枸橼酸鐵 U.S.P VIII.....0.30
- 葡萄糖.....80.00
- 蒸留水.....1.000.00cc

上記ノ者ヲ順次ニ混ジテ良ク溶解シ、300ccノエルレンマイエル氏瓶中ニ100cc宛入レテ置キ、10—12磅蒸氣壓ノ下テ20分間宛3日間、又ハ常壓蒸氣中テ30分、20分、15分間宛3日間加熱滅菌スル。ソシテPHハ6.4—7.0ノ間トスル。

著者ハ14日以上經過シナイ盛ニ生長シツ、アル普通固形培養基上ノ菌ヲ著者ノ培養器ニトリ、37.°5Cテ培養シタ所、初メハ徐々ニ生ヘ上記100ccノ培養基ニ就キ菌ノ乾燥量0.50gニ達スルニ4週間乃至其以上ノ日數ヲ要シタガ、一旦生ヘレバ確實ニ生長シテ凡ソ8週間テ最大量ニ達シタ。得ラレタ最大量ハ100ccノ培養基テ1.89gデアツテ、成熟セル培養基上ノ菌ノ平均量ハ1.60gデアツタ。尙結核菌種ノ中テ人型菌最モヨク生長シ、中型菌ニ次ギ鳥型ハアマリ生ヘナカツタ。人型菌ノ場合ニ著者ノ培養基ノ反應ヲ検査シタ所、初メカラ酸性テ(PH. 5.4ヨリ低イ)後ニハヨリ鹽基性デアツタ。之レハ「リスリン」及ビ「アスパラギン」培養基ニ於ケル反應曲線トハ全然逆デアル。又生長ノ色々ノ時期ニ培養液ヲ検査シテ見タガ全固形體ノ量、還元糖及ビ硝酸「アンモニヤ」ノ量ハ90%減少シテ居ツタ。前掲ノ様ニ葡萄糖ヲ8%含ンテ居ルガ10%ニシテモ同様ニ成功シタガ、之ヲ12%ニスルト菌ハ生ヘナカツタ。

斯様ニ人型結核菌ガ葡萄糖、林檎酸培養基ニ甚ダヨク生長スルト言フコトハ、結核菌ノ發育ニハ「アミノ」酸及ビ「グリセリン」ガ必ズシモ必要テナイト言フ事ガ分カル。

(宇多野 山内抄)

結核ニ於ケル「ヘテロアレルギー」

J. Weissfeiler: Heteroallergy in Tuberculosis The

Tissue Reaction of Tuberculosis Animals to Pathogenic Mikroorganism.

「アクチノミーテズ」ヤ「デフテロイド」ヤ「ザルチーナ」ノ如キ非病原性微菌ヲ結核動物ニ皮内感染ヲ起コサスト其ノ組織學的進展ノ模様ガ元ノ Koch ノ現象トヨク類似セル反應ヲ惹起スル。之ヲ「ヘテロアレルギー」ト稱シテ居ルガ、此ノ「ヘテロアレルギー」ガ結核動物ニ於ケル非特異性感染ノ経路ニ如何ナル影響アルカヲ確カメントシテ著者ハ次ノ實驗ヲ行ツタ。14 匹ノ「モルモット」ト 16 匹ノ家兎トヲ使ツテ結核感染セル者ト健康ナル者トノ平行列ヲ準備シ、是等ニ橙黄色化膿性葡萄状球菌ノ浮游液 0.1ccヲ皮内ニ注射シタ。此ノ溶液ハ 1 cc 中ニ 500,000,000 個ノ菌體ヲ含ム大腸菌浮游液ト濃度ノ等調ノ者デアアル。其結果ハ結核動物ト健康動物トニ於イテ非常ナ差異ガアルヲ認メタ。即チ健康動物テハ膿瘍ヲ作ツタガ次イテ漸次ニ吸收サレタ。然ルニ結核動物テハ 1—2 日ノ中ニ淡黄ナ膿疱ヲ作り、コレガ充血性ノ周帶テトリ圍マレテ居ルガ間モナク退行シ、終ニ表皮テ被ハレタ痂痕ヲ作ル。猶之ハ組織學的所見テモ兩動物ノ間ニ非常ナ差異ガアツテ、非結核動物テハ皮下組織ニ膿瘍ヲ作り白血球ノ浸潤ヲ伴ツテ居ルガ、結核動物テハ

此ノ傷害ハ遙カニ局限サレテ、中央ノ壊死部分ヲ取り圍ンテ居ル。ソシテ感染ノ最後ノ結果ハ兩者略ク同一デアアルカ感染ノ局所ノ治療ハ結核動物ノ方カ少シ早イ。

上述ノ如キ速ニ起ツタ炎衝性反應、其反應ヲトニ圍ム判然トシタ限界、及ビ其ノ壊死中心部ノ排出等ハ周圍ヘノ感染ノ擴大ヲ消滅ハ防止セントスル反應ナル事ヲ示シテイル。

斯ノ如ク健康動物ト結核動物トニ非病原菌ヲ注射スルト其反應ニ相違ガアルガ、化膿菌ヲ使用シタ場合テモ同様ノ現象が見ラレル。而シテ結核動物ニ葡萄状球菌ヲ皮内ニ注射スルト、Koch ノ現象ニ似タ現象ヲ呈シテ迅速ナル細胞浸潤ト之レニ續イテ組織ノ壊死ヲ起シタ。ソシテ此ノ「ヘテロアレルギー」ノ反應ハ結核動物ニ化膿菌等ノ急性傳染ニヨル非特異性感染經過ニ影響ヲ及ボス様デアアル。斯様ニ非特異性ノ急性傳染疾患ノ場合ニ於ケル結核動物ト健康動物トノ間ニ見ル差異ハ結核菌ト他ノ傳染病原菌トノ拮抗作用ニヨル現象デハナクテ、全ク非特異性ノ作用ニヨルモノテ結核ニ感染セル動物組織ハ又他ノ細菌ニ對シテモ或程度ノ防禦力ヲ示ス者ガト考ヘラル。

(宇多野 山内抄)

結核外専門雜誌

結核菌培養ニ際シ、型鑑別ノ爲ニセル減壓酸素ノ牛型菌聚落ニ及ボス影響

J. Witte: Beeinflussung der Kolonieförmigen der Tuberkelbakterien des Typus bovinus durch Züchtung bei verminderter Sauerstoffspannung unter Berücksichtigung der Typenunterscheidung (Zentralblatt für Bakteriologie. I Orig. Bd. 139, Nr. 5/6.)

結核菌初代培養ニ於テ、「グリセリン」ヲ含ム培地ト含マナイ培地ニ、同時ニ培養シ、前者ニ發育良好、後者ニ發育不良ナレバ、多クノ場合人型或ハ鳥型ニシテ、之ニ反スレバ牛型デアアル、然シ稀ニ兩培地ニ同様ニ發育スル場合ガアル、カ、ル時ハ試験管内ニ酸素ヲ吸收スル装置ヲシタ密閉試験管内テ、減壓酸素ノ下テ培養スレバ、牛型菌ガ人型菌ニヨク似タ粗イ、「ブルームンコール」様ノ聚落ヲ形成スル、此ノ所見ハ型鑑

別ニ於テ注意スベキデアアル。(北研 植村抄)

皮膚結核ノ組織學的細菌學的研究

Bloch, F. et Ducourtieux. M.: Le controle histobactériologique des tuberculoses cutanées. (Ann. l'inst. Pasteur, 1937, 58, 625.)

臨牀的ニ皮膚結核ト診斷セラレタ 10 例ニ就イテソノ組織學的竝ニ細菌學的檢索ヲ行ヘルニ、内 2 例ハ組織學的ニモ細菌學的ニモ結核トシテノ診斷ヲ下ス事ガ出來ナカツタ、他ノ 8 例ハ細菌學的ノ詳細ナ研究ノ結果總テニ結核菌ヲ見出し得タ。然シ患部ノ膿汁ヲ硫酸テ處理シテ及分離培養基ニ移植シテ結核菌ヲ分離シ得ルモノハ非常ニ稀デアアルガ、コレヲ海狸ニ接種スルト海狸ガ早晩結核ニ感染シソレカラ分離シテ結核菌ノ純培養ヲ得ラレルカラ患部ノ濃汁中ニ結核菌ハ少數ガ存在スル事ヲ知り得タ。更ニソノ分離シタ

各結核菌ニ就イテ家兎竝ニ海狸ヲ使用シテソノ型(人型、牛型、鳥型)トソノ毒力トヲ檢ベタガ、カ、ル皮膚結核ニハ人型及ビ牛型何レモ檢出セラレルガ毒力ハ一般ニ弱イノガ通例デアツタ。

患部組織標本ニ就イテハ中央ガ乾酪變性ニ陥ツテソノ周圍カ上皮様細胞、Langhans 氏巨大細胞、淋巴球ヲ取りカコマレタ所謂定型的結核性結節ハ見ラレル場合少ク殆ソド全部ハ非定型的ノ組織像ヲ示シテキタ。又カ、ル組織中テ結核菌ノ染色セラレタ場合モ極ク稀デアツタ。(傳研 柳澤抄)

氣胸療法ト結核菌血症トノ間ニ何カ關係ガ存在スルカ

Tuchila, J.: Existe-t-il une relation entre le pneumothorax thérapeutique et la bacillémie tuberculeuse? (Ann. l'inst. Pasteur, 1937, 58, 677.)

外科的手術カ肺結核ヲ増悪セシメル事ハヨク知ラレタ事デアリ、又横隔膜神經切斷術カ時トシテ粟粒結核ヤ腦膜炎ヲ伴フ結核性播種ヲ招來スル事モ人ノヨク經驗スル事デアル。コレハ外科的手術ヤ横隔膜神經切斷術ニヨツテ結核性病變部位ヲ傷付ケタ爲メ結核菌ガ血行中ニ迷入シテ惹起セラレタモノト解セラレテキル。自然的氣胸カ生ジタ時ニモ引續イテ播種性結核カ現レル事モヨク見ラレルトコロデアル。氣胸療法ヲ行ツタ後 Opsonin 係數ノ上昇スル事ヤ、補體ヲ結合スル抗元カ増加スル事ヤ血液ノ噬菌能ノ變化スル事ヤ殺菌能ノ増加スル事等ハ考ヘ方ニヨツテハ血行中ニ結核菌ノ現レテ來タ事ヲ思ハシメルモノデアル。

著者ハ人工氣胸療法ニ依ツテ實際血行中ニ結核菌ガ出テ來ルモノデアルカドウカラ知ラントシテ次ノ如キ實驗ヲ行ツタ譯デアル。Wolf, Verdina, Voncken 氏等モ同様ノ實驗ヲ行ツテ既ニ人工氣胸療法ニヨツテ血行中ニ結核菌ノ出現スル事ハナイト結論シテキル。

著者ハ13人ノ肺結核患者ニ人工氣胸ヲ行ヒ、人工氣胸2日前ノ血液及ビ人工氣胸後30分、24時間竝ニ3日ノ血液中ノ結核菌ヲ檢索シタ。血中結核菌ノ檢索方法ハ Loewenstein 氏培地ヘノ培養ト海狸ヘノ接種トニヨツタガ、檢査患者13人中1人モ人工氣胸前ハ勿論ノコト、人工氣胸後ト雖モ血中ニ結核菌ヲ見出ヌコトガ出來ナカツタ。之カラ觀ルト、人工氣胸療法ト結核菌血症トハ何等ノ關係ノナイモノト考ヘラレ

ル。(傳研 柳澤抄)

人工培地上ノ結核菌ノ發育ト「ツベルクリン」ノ產生トノ關係

Wong, S. C., The relation between the growth of mycobacterium tuberculosis and the yield of tuberculin on synthetic media. (J. Bact. 1937, 33, 451)

結核ノ免疫實驗又ハ除感作實驗ニ Tuberculoprotein カ廣ク使用セラレル様ニナツタ今日、種々ノ人工培地上ニ發育スル結核菌ノ重量トソノカラ產生セラレル「ツベルクリン」量トノ關係如何及ビ「ツベルクリン」產生ニ及ボス發育結核菌量以外ノ因子ニ就テ研究ヲ要スル事トナツタノテ、Long 氏人工培地(Long and Seibert, 1926)、改良 Long 氏人工培地(Wong and Weinzirl, 1936)、改良 Henley and Le Duc 氏培地及ビ葡萄糖蔗糖培地(Glucose-sucrose medium)ノ四種ノ培地ニ結核菌 H 37 ヲ培養シテ以上ノ關係ヲ窺フニ培養後6週ニ於テ發育結核菌量ハ改良 Henley and Le Duc 氏培地カ最大テ、ソレニ次イテ Long 氏培地及ビ改良 Long 氏培地デアツテ葡萄糖蔗糖培地カ最も少ク、改良 Henley and Le Duc 氏培地ノ結核菌量ノ半量以下デアル。ソレニモ拘ラズ、是等カラ得ラレタ「ツベルクリン」ノ蛋白質量ハ葡萄糖蔗糖培地カ最大テ、次イテ改良 Henley and Le Duc 氏培地、改良 Long 氏培地、Long 氏培地ノ順位デアル。トコロガ、培地ノ終末 PH ヲ測ルト葡萄糖蔗糖培地ハ 7.8 改良 Long 氏培地及ビ Long 氏培地ハ何レモ 5.8、改良 Henley and Le Duc 氏培地ハ 6.6 テアツテ、培地ノ終末 PH ノ高イモノ程 Tuberculoprotein カ多イ様ニ思ハレタノテ、今度ハ改良 Long 氏培地タケヲ使用シ PH ヲ 5.8 ノマ、ニシタモノト Na₂CO₃ ヲ加ヘテ 7.2 乃至 8.0 ニシタモノトニ就イテ結核菌6週間培養後ノ Tuberculoprotein 量ヲ見ルニ、想像ニ反セズ Na₂CO₃ ヲ加ヘテ「アルカリ」性トナシタ培地カラ調製シタ「ツベルクリン」ノ蛋白質ハ然ラザルモノ、約倍量ニナツテキルノヲ知ツタ。以上ノ事カラ Tuberculoprotein ノ產生ノ多キヲ望ム場合ニハ培地ノ PH ヲ可成リ「アルカリ」性トナス事カ大切ナル事カ判ツタ。コノ意味ニ於テ、「ツベルクリン」ノ多量ノ產生ヲ望ム場合ハ葡萄糖蔗糖培地カ最も適當デアル。尙ホ葡萄糖蔗糖培地ハ他ノ人工培地ニ比較スルト經費ノ點ニ於テモ可成リ低廉ナルカラコノ點モ亦甚ダ好都合ト思ハレル。(傳研 柳澤抄)

過敏症ト免疫ト「分離」ニ關スル實驗

Walter Pagel: Experiments on "Dissociation" of Allergic Hypersensitiveness and Immunity.

(Journal of Pathology and Bacteriology; Vol. XLIV No. 3, 1937)

本研究ハ主トシテ過敏症ト免疫トノ間ニ於ケル關係ニ就テノ知見ヲ得ル目的ヲ以テ加熱死滅結核菌並ニ非特異性物質ヲ以テソレゾレ豫メ處置サレタ海猿ノ皮下ニ結核菌ヲ接種シテ其結果發現スルトコロノ反應ヲ檢索シタモノデアアル。

免疫現象ガ必ズシモ過敏症ニ附隨シ又ハ夫ト一緒ニナツテ成立スルモノデハナイト謂フ事實ハ既ニ多數ノ學者ニ依テ各方面カラノ實驗ニ基イテ證明セラレテ居ルニモ拘ラズ今日尙是等兩現象間ニハ因果關係ガアルモノデアアルト述ベテ居ル文獻ヲ見掛ケルコトガ屢々アル。從ツテ著者ハ本問題攻究ニ當ツテハ非特異性物質ニ依ル處置ガ是等兩現象ニ如何ナル影響ヲ及ボステアラウカト云フ點ヲ特ニ檢索スルコトガ必要デアアルトシテ以下ノ如キ實驗ヲ行ツタ。

I) 加熱死滅結核菌 1 疋ヲ生理的食鹽水 2 疋ニ浮游セシメ、ソノ 1 疋宛ヲ每週 1 回 8—10 回ニ互ツテ海猿ノ腹腔内ニ注射シ最後ノ注射ヨリ 6 週後一人型結核菌 0.001 疋ヲ其ノ皮内ニ接種シタ。

II) 如上ノ實驗ニ於ケル生理的食鹽水ノ代リニ「グリセリンベプトン」水ヲ以テシ其他ハ I ト同ジ。

III) IIニ於ケル結核菌接種量ハ I ト同量デアツタガ本實驗ニ於テハソノ 10 倍即チ 0.01 疋ヲ接種シタ。尙「ワクチン」浮游液ヲ作ルノニハ「グリセリンベプトン」水ヲ以テシタ。

IV) 唯單ニ 1%「ベプトン」肉汁又ハ之ヲ 1/5ニ濃縮シタモノノミノ 0.5—2 疋ヲ海猿ノ腹腔内ニ每週 1 回、6—10 回ニ互ツテ注射シテ置キ其後ハ I ニ

於ケルト同様ニシテ結核菌ヲ接種シタ。

V) 「ベプトン」肉汁ト同量ノ動物人血清ヲ混合シタモノニ加熱死滅結核菌ヲ浮游セシメ之ヲ海猿ノ腹腔内ニ 10 回注射シタ後 IIIニ於ケルト同様ニシテ結核菌ヲ接種シタ。

以上ノ如クシテ結核菌接種局所ニ於ケル反應ノ強弱、部屬淋巴腺ノ反應並ニ變化、「ツベルクリン」皮内反應及ビ一定期間後ニ於ケル内臓ノ結核性病變ノ程度等ニ就テ詳細ニ觀察シテ免疫ト過敏反應相互間ノ關係ノ闡明ニ努メタ結果其ノ成績ヲ次ノ如ク要約シテ居ル。

即チ、加熱結核菌「ワクチン」處置海猿群ニ於テハ結核菌接種局所ニ微弱ナル即時反應ガ起ツタガ之ハ何モ結核菌ニ對スル感染防禦力ノ成立ヲ示スモノデハ無クムシロ感染防禦ノ成立ハ斯カル即時反應ノ性質トハ無關係ニ發來スルモノデアツタ。1%「ベプトン」肉汁ヲ以テ調製シタ加熱結核菌「ワクチン」ヲ以テ豫メ處置シタ海猿群ニ於テハ結核菌接種後屢々即時過敏反應ヲ伴ハザル防禦能力ガ成立シタ。

尙豫メ 1%「ベプトン」肉汁ヲ以テ處置シテオクト結核菌注射局所ニ於ケル反應ハ屢々減退シ而モ内臓ニ於ケル結核性病竈モ僅微トナリ或動物ニ於テハ之ガ缺如スルコトモアツタ。斯カル成績ハ結核菌感染ニ對スル異種過敏免疫反應トモ見做ス可キモノデアラウ。

「ワクチン」ヲ豫メ注射シテ置イタ動物ニ於ケル結核菌感染局所ノ即時反應ハ炎症ヤ壞死ヲ缺如セルニモ不拘之ヲ巨細ニ觀察スルニ接種サレタ結核菌ノ固定並ニ破壞ノ形跡ガ明ニ認メラレタ。

以上ノ成績ニ依リ著者ハ結核症ニ於ケル過敏症ト免疫トハ可分現象デアアルト謂フ可キデアアルト結シテ居ル。
(九大、細菌 占部薫抄)

一 般 學 術 雜 誌

膿胸瘻管治療用ノ一新裝置ニ就テ

L. Imbert: Traitement des fistules purulentes pleurales par l'aspiration continue (7 fig). (La presse médicale 1937 N°2 p. 17)

呼吸機能が完全ニ行ハレル爲ニハ肋膜炎ノ壓力ハ外氣ノ壓ヨリ低イ事ガ必要デアアル。此ノ關係ガ破レタ

時醫師ハ其ノ復舊ニ努メナケレバナラナイ。然シ單純ナ肋膜炎ノ様ナ場合ニハ穿刺ニヨツテ容易ニ其ノ目的ヲ達シ得ルガ手術後瘻管ガ生ジタ様ナ時ニハソウ簡單ニハ行カナイ。最も簡單ナノハ Siphonage ト呼バレルモノテ瘻管ニ護謨管ヲ通シ其ノ遊離端ヲ床下ニ置カレテアル液體ヲ入レタ容器中ニ漬ルノデア

ル。此ノ裝置ノ缺點トシテ容器内ニ咳嗽發作等ノ時肋膜腔内ノ滲出物カ入り之ヲ汚染スル事カアル。此ノ不便ヲ除クニハ此ノ中間ニ今一ツノ汚物貯藏容器ヲ挿入スルトヨイ。又患者ハ臥牀ノ位置ヲ餘々動か事カ出来ナイ。

是等ノ缺點ヲ補フ爲著者ハ次ノ様ナ裝置ヲ考案シテ即瘻管ニ氣密ニ連絡サセテ護謨管ハ硝子管ヲ經テ貯藏瓶ニ入り此ノ瓶カラ出タ別ノ硝子管ハ直ニ二分シテハ氣壓計ニ連絡シ今一ツハ小形「ポンプ」ニ結合スル。而シテ是等ノ裝置全體ハ一ツノ板上ニ固定サレテ居テ患者ハ此ノ板ヲ頸カラ掛ケタ紐ニヨツテ胸部ニ下ケテ居ルノデアアル。咳嗽毎ニ肋膜腔内及ビ護謨管内ノ空氣ハ壓迫サレテ貯藏瓶中ノ液體ヲ排除シテ外ニ出平靜時ニハ之ニ代ツテ瓶底ノ液體ガ上ツテ行クノデアアルカソノ液柱ハ「ポンプ」無シテハ 10—15 厘以上ニ上リ得ナイ事カ多イ、「ポンプ」ヲ用ヒルト水銀柱ヲ 4—5 厘内壓ヲ低メル事カ出来ル。此ノ裝置使用上最モ注意シナケレバナラナイノハ瘻管ト護謨管ノ氣密接合デアアルガ之ニハ Delbet 氏排膿管ヲ用ヒルトヨイ。

(傳研 中山抄)

肺結核ノ臨牀研究ニ於ケル末梢血液中ノ網狀赤血球検査ノ重要性ニ就テ

M. Szour et C. Bergenbaum: Sur l'importance pratique de l'examen des réticulocytes dans le sang périphérique pour l'étude clinique de la tuberculose pulmonaires. (4 fig.) (La presse médicale 1937 N°5 p. 79)

著者ノ用ヒタ方法ハ Levaditi et Ehrlich 法テ特別ナ場合以外ハ總テ 15 日ノ間隔ヲ検査ヲ續ケテ居ル。其ノ結果ヲ總括スルト、1) 纖維性慢性肺結核テ特ニ無熱テ咳嗽喀痰ナク結核菌陰性ヲ中毒症狀カ極ク輕イカ全ク無イ者アハ網狀赤血球曲線ハ健康人ト變リナク赤血球 1000ニ對シ 2—5 時ニ 8 位ヲ總テ老齡ノモノ許リデアアル。2) 亞急性テ進行性少ク且ツ中毒症狀ノ餘リ著明テナイ形テハ 6—12%テ幼若形カ稍々増シテ居ル。3) 急性肺結核テ進行期ニアル者ハ網狀赤血球數激增シ 60—70%トナリ幼若形カ大部分ヲ占ム様ニナル、凡テ病勢カ進行スル時ハ網狀赤血球カ増シ幼若形カ現レテ來ル。反之恢復ニ向フ時ハ次第ニ其ノ數ヲ減ジテ來ル。又一般症狀惡化シ生體ノ防禦機能が全ク無クナツタ時ニハ網狀赤血球ノ數ハ再ビ減少スル。最後ニ著者ハ此ノ網狀赤血球曲線カ診斷上豫

後判定上何如ニ重要ナモノデアアルカヲ示スタメ 3 個ノ觀察例ヲ舉ゲテ居ル、其ノ第一ハ上葉ニ腔洞ヲ有シ發熱 38° 以上ヲ示ス重症患者テ網狀赤血球 30%ヲ示シタモノニ人工氣胸ヲ施行シ體温ハ下降シ一般狀態モ全ク良好トナツタニ拘ラズ網狀赤血球數カ著明ニ下降シナカツタ。「レントゲン」寫眞ニヨツテ腔洞カ肋膜ノ索狀癒著ニヨツテ萎縮シテ居ナイ事ヲ知リ此ノ癒著ヲ焼切シタ。スルト其ノ後網狀赤血球數モ減少シ一般症狀モ更ニ良轉シタト云フノデアアル。第二ハ非常ニ重篤ナ兩側肺結核患者カ一般狀態カ一向良轉シナイノニ網狀赤血球數ノミカ 34 カラ 14.10 卜下リ 4 ヶ月目ニハ 6—5 トナツタ。此ノ頃ニナツテ夫レ迄陽性デアツタ Tuberculin 反應モ陰性ニ變リ患者ハ間モナク死亡シタ。第三ハ初メ重篤デアツタ諸症狀カ次第ニ輕快シ熱モ全ク無クナツテシマツタカ網狀赤血球曲線ダケハ依然トシテ高イ位置ヲ續ケ著者等モ非常ニ警戒シテ居タガ果シテ漸クシテ再ビ急激ニ惡化ヲ示シタ例デアアル。

著者等ハ網狀赤血球ノ検査ト同時ニ白血球像ノ變化赤血球沈降速度 Tuberculin 反應等ヲ檢シテ居ル之ニ關シ著者ノ言ニ據レバ Schilling 氏ノ Haemogram ハ餘リニ動搖カ激シ過ギ何ニ由ル動キカソノ原因ヲ確メル事ノ出来ナイ事カアリ又沈降速度ハ餘リ安定過ギテ急變ヲ豫知スル事カ出来ナイ、網狀赤血球曲線ノ銳敏度ハ大體此中間テ肺結核ノ診斷後判定ニハ是非用ヒラルベキモノデアアルト。(傳研 中山抄)

肺結核ノ診斷ニ對スル早朝空腹時採取ノ胃内容物中ノ結核菌検査ノ價值

P.-F. Armand-Delille et G. Kerambrun: Valeur de la recherche du bacille de Koch dans le contenu gastrique recueilli à jeun pour le diagnostic de la tuberculose pulmonaire. (La presse médicale 1937 N°10 p. 172)

著者等ハ 1927 年本法ヲ發表シテ以來 10 年間ニ千數百例ニ就テ本検査ヲ行ツタ其ノ結果ヲ纏メテ發表シタモノデア先ヅ單ニ染色ノミニヨツタ結果カラ記載シテ居ル、之ニ就テハ表ヲ其ノ儘借用スレバ説明ノ必要ハナイト思フ。

皮膚反應十、肺或ハ肺門部ニ病的 總數 十 十% 暗影アル者

1° 初期感染(初生兒、0—3 歳小兒)

a) 無熱治癒傾向著明ナ者 106 10 8.6

b) 進行性初期感染	118	64	54.2
2° 塵粒結核	44	28	63.6
3° 再感染			
a) 多少共新シイ腔洞ヲ有ス者	121	117	97.0
b) 進行ノ傾向少イ者	20	8	40.0
c) 腔洞ノナイ進行性ノ者	141	102	72.3
d) 硬結性肺炎	34	10	26.4
4° 氣管枝周圍淋巴腺結核			
(肺實質ニハ病變無キ者)	38	3	7
5° 漿液纖維素性肋膜炎			
(肺實質ニハ病變無キ者)	36	5	13.5
6° 氣管枝擴張	44	2	4.1
小 括	702	349	49.8
7° 對照(此ノ内 457 例ハ皮膚反應陽性)種々ノ呼吸器疾患ノ爲診察ヲ乞ヒタルモ肺及ビ肺門部ニ病的暗影ヲ認メヌ者	586	3	0.5以下

Saenz 及ビ Costil = 依テ胃液沈渣ヲ Loewenstein 氏培地ニ植ヘルト結核菌檢出ノ陽性率ノ増ス事カ明ニサレテ以來著者等モ之ヲ追試シ染色ノミテハ陰性デアツタ 31 例ノ内 17 例ノ陽性例ヲ得タ、以下著者等ハ文獻ニ現レタ諸家ノ本法ニヨル陽性率ヲ仔細ニ檢討比較シ本法ハ同時ニ Loewenstein 培地ヲ用ヒテ檢査スル時ハ小兒及ビ喀痰ヲ出サナイ成人ノ結核菌檢査ニ對シテハ非常ニ良イ方法デアツテ結核ニ關係アル醫家ハ是非試ミラルベキデアルト云ツテ居ル。

(傳研 中山抄)

肺氣管枝ノ分泌ニ對スル橫隔膜神經切除術ノ作用ト其ノ機構

C. Bibescu et Gh Polatos: L'action de la phrénicctomie sur les sécrétions et son mécanisme La presse médicale 1937 N°11 p. 190)

橫隔膜神經切除ニヨル肺病變部ノ治療效果ニ對シテハ大體ニ二種ノ説カ行ハレソノ一ハ簡單ナ機械說テ手術ノ結果起ル橫隔膜ノ上舉ニ總テヲ歸スモノテ今一ツハ治療效果ノ大部分ヲ本神經ト密接ナ關係ニアツタ交感神經及ビ迷走神經ノ平衡ノ失ハレタ事ニヨルト考ヘルモノデアル著者ハ明ニ後者ニ左袒シ橫隔膜神經切除ニヨツテ時ニ著明ナ肺及ビ氣管枝ノ分泌ノ減少ヲ來ス事實ノアル事ヲ認メ其ノ證明ノ一助トシテ 3 例ノ自驗例ヲ舉ゲテ居ル。第 1 例ハ右上葉ニ大腔洞ヲ有スル 50 歳ノ男テ 1 日ノ喀痰量ハ 180cc 位デアツタ之ニ橫隔膜切除術ヲ施シタ所橫隔膜ハ 3 cm

位シカ上ラナカツタガ既ニ手術翌日カラ喀痰量ハ激減シ終ニ 1 日 20cc 位ニナリ一般症狀モ非常ニ良クナツタ。第 2 例ハ 17 歳ノ男テ人工氣胸續行中ニ化膿性肋膜炎トナリ手術シタガ傷口カラ 1 日ニ 250cc 位ノ膿ガ流出シテ居タ、橫隔膜神經切除後モ勿論橫隔膜ハ上ラナカツタガ膿ハ次第ニ減少シ 15 日目ニハ 1 日量 5—10cc 位ニナツタ。第 3 例ハ氣管枝擴張テ 1 日ノ喀痰量 200—250cc モアツタ者ガ手術後橫隔膜ハ全然動カナカツタニモ拘ラズ、喀痰量次第ニ減少シ 20 日目ニハ 15cc トナリ終ニ 1 日 5 cc 位ニ至ツタ、是等ノ觀察カラ著者ハ橫隔膜神經切除ヲ行フト直ニ氣管枝及ビ肺ノ分泌ガ減少シテテ全身症狀ノ輕快ガ起ル事ヲ認メ本法ヲ人工氣胸ニ併用スレバ氣胸續行中ニ起ル肋膜炎滲出液瀦溜ノ頻度ヲ減少セシメ得ルト云ツテ居ル。

(傳研 中山抄)

「トモグラフィ」ト肺病變部研究ニ對スル本法ノ興味

E. Bernard, McDougall et A. Camino: La radiographie limitée à un plan (Tomgraphie). Son interet dans l'étude des lésions pulmonaires (11 fig.) (La presse médicale 1937 N° 23 p. 441)

「レントゲン」寫真ノ撮映時ニ照射「レントゲン」線ノ圓錐内ニ入り來ツタ物體ノ影ノ總和デアリ胸部寫真テハ肋骨ガ全體ノ 2/3 以上ヲ占メテ居テ肺實質ノ變化ハ其ノ判定ニ非常ナ支障ヲ受ケテ居ル、此ニ對シテ從來色々ノ方法ガ考ヘラレタガ中テモ立體撮映法ガ最も便利デアツタ然シ之レモ或程度以上ニハ各病變ノ分離ヲ示ス事カ出來ナイ、之ニ對シテ考案サレタノガ本報ニ述ベル一平面ノミヲ明瞭ニ寫シ出ス Stratigraphie 或ハ一般ニハ Tomographie ト呼バレル撮映法デアル (Tomos=section)。本法ノ原理ヲ考案シタノハ佛人 A. Bocage(1922)、實際用ヒタノガ伊人 Vallebona (1930)完成シタノガ蘭人 Ziedesノ臨牀的ニ普及サセタノガ獨人 Bartelink(1933)及ビ Chaoul & Grossmann(1935)ガデアアル。其ノ原理ハ「レントゲン」管球ヲ撮映時間中ニ乾板面ニ平行ニ一定ノ方面ニ移動サセ同時ニ乾板ニ管球ト逆ノ方向ニ平行移動ヲ行フ斯ウシテ出來上ツタ寫真ハ照點面ノ物體ノ暗影ダケハ全ク動カナイガ其ノ他ノ高サノ物體ハ次々ニズレテ寫ルタメ全體トシテ照點面ノ物體ダケガ明瞭ニ寫リ他ノ部分ハ總トホケテシマフ、此ノ管球ト乾板面ヲ同時ニ旨ク動カス爲ニ色々ノ考案ガアルガ管球ノ移動

距離が長クレバ長イ程照點以外ノ面上ノ諸點ノ影像ハ一層不明瞭ニナル、最近 Grossmann ト Chaoul ノ考案シタモノハ簡單テ管球ハ圓ノ弧ノ上ヲ移動スル様ニナツテ居ル、即水平軸ノ周リニ回轉スル平衡棒ヲツケソノ上端ニ管球ヲツケ下端ニ乾板ヲ支持シタモノテ此ノ兩者ノ中央カラ下ニ奇ツテ撮映物ヲ置ク臺ヲ設ケ乾板ニハ Potter-Bucky ノ格子ヲ備ヘテアル。管球ハ多少上下ニ移動出來照點面ヲ適當ニ定メル様ニナツテ居ル、撮映前ニ患者ニ深吸入ヲ命ジテ其ノ時ノ胸部ノ厚サヲ測リ管球ト所期ノ平面トノ距離ヲ計算スル。理論上ハ何處ニ面ヲ定メテモ良イ譯テアルガ Chaoul ハ大體系統的ニ三ツノ面ヲ定メルノガ良イトシテ居ル。即1) 胸骨カラ 5—6cm 内部ノ腹面、2) 胸骨ト背ノ中間ノ中央面(此ノ部ガ肺門ニ當ル)、

背カラ 5—6cm 内部ノ背面、此ノ三面ヲ撮映シテ大體ノ見當ヲツケ必要カアレバ此ノ間ヲ更ニ細ク切ツテ撮映スル、露出時間ハ一般ニ 1 秒テアル、多少長スギル様ニ思ハレルカモ知レナイガ之レ位ガ最モ良イ、臨牀上ノ應用トシテ最モ興味アル事ハ此ノ寫眞ニ肋骨ノ影像ガ全クナイ照點面ヲ肺門ニ定メルト氣管枝ノ分岐状態ト血管網ヲ容易ニ認メ得ル、本法ニヨツテ肋膜ノ癒著部ヲ定メ試験的肋膜腔切開ノ必要ヲ無クスル事カ出來ル。最モ有效ナノハ腔洞ノ存在ヲ確メソノ位置及ビ大サヲ確定スル事テアル。肺内部ノ局部的變化ヲ斯クモ詳細ニ知ル事ハ外科手術施行ニ際シテモ非常ナ便利ヲ與ヘ合理的治療ヲ可能ナラシメルモノテアル。(傳研 中山抄)

會報誌ニ雜報

○八月中新入會者

龜山良一 栃木縣足利市大門通

鈴木俊男

函館市堀川町六三函館濟生病院內

松田心一 水戸市仲町四九〇茨城縣健康相談所

森良雄

福岡市九州帝國大學醫學部細菌學教室

○結核第十五卷第七號追記

原著。有馬賴吉、青山敬二、他十二名。「A. O」ヲ以テセル結核豫防ノ實績(第三報)ハ特別掲載ニ就キ追

記ス。